

インクルージョン

東洋大学教授 清水直治

インクルージョンとは、障害の種別や程度にもとづく分離教育は不平等であるという観点から、障害のある子供を含むすべての子供に対して、学区の通常の学級において、特別な教育ニーズを満たす適切な教育を行うことをめざす教育理念・方法をいう。学校の施設整備やカリキュラムの工夫、学習支援体制の導入などを通して、すべての学校を、すべての子供たちの教育ニーズに応えられるように改革・再構築することが求められる。教育の制度や方法の改革というだけではなく、障害の見方や学校教育の在り方をも含む学校教育その根底にある。一九九〇年のジョムティエン会議での「すべての人に教育を」とや、一九九四年の「サラマンカ宣言」など、インクルージョンは国連の主導で推進されてきた。わが国において二〇〇三年三月に出された「今後の特別支援教育の在り方」も、この影響を色濃く受けている。

ポートフォリオ
最短の定義は「評価学習法」である

奈良教育大学教授 安藤輝次

ポートフォリオとは、①自分が自発的に学びの伸びや変容を②多面的③多角的かつ④長期的に評価し、⑤新たな学びに生かすために⑥学習物等を集めたものである。
①の「自分」が「子ども」なら子ども用ポートフォリオ、教師なら教師用ポートフォリオとなる。②の「多面的評価」とは、文字による学びだけでなく「ビジュアル」や「行動」による学びも評価すること、その際に③の「自己評価」だけでなく仲間の「相互評価」、その他お世話になった人々からの「他者評価」を交えて「多角的に評価」し、それを④少なくとも「単元や学期や学年」を通して長期的に評価しながら、その「長短所を確認」して⑤の新たな学びに生かす評価学習法である。そのために「学習過程で生まれたもの」、つまり、⑥目当てと計画、ノートやマップや振り返り、報告書やアンケート結果、作品や授業風景を描いた写真、関係者の感想などの学習物等を集めなければならない。

エンパワーメント

大阪教育大学名誉教授 中野陸夫

エンパワーメントとは、差別や抑圧などによる人間疎外の結果として弱い立場におかれている人が、自分らしさを発揮し、他者と力を合わせることで、社会を変革していく力をつけていくこと、その過程のことをさしている。

国際的な人権教育の場で使われるようになったことばであるが、人は、さまざまな困難を克服して、文化的、社会的、政治的、経済的な状況を変革していく力をもつことができるという人間観に立っている。これと対照的なのは、力のある人が、弱い立場にある人に力を与えるというような考え方であり、人権教育はこのような人間観を根本的に否定する。

学校教育の場では、子ども観に色濃く反映される。例えば、問題行動にはしついている子ども、走りがちな子どもにどう向き合うかである。現象面にとらわれることなく、子どもをとりまく諸状況をふまえ、子どもの力をどう引き出すかがポイントとなる。

ジェンダー

静岡大学教育学部教授 馬居政幸

ジェンダーは歴史的、社会的、文化的に形成された男女の差異を意味し、生物学的な性差を示すセックスやセクシャリティと区別する用語として用いられる。その前提に、人種、民族、年齢、身体的状況、そして性差によって差別されてはならないという個人の尊重や人権の理念がある。それは男女が社会に参加する機会において同じ権利を持つということであって、男女差をなくして画一化することや中性化することではない。男女が基本的に同等の権利と責任をはたす存在として公平に社会に位置づけられることを求めるジェンダー・イクイティ（平等）として理解しなければならない。類似した言葉にジェンダー・フリーがあるが、この場合も性差を理由に社会的役割を強制するのではなく、男女ともに多様な生き方を可能にすることを求める用語である。最近では誤解や偏見をさけるためにジェンダー・センシティブ（ジェンダーに敏感な）という言葉が用いられることが多い。

ルーブリック

城西国際大学非常勤講師 小田勝己

ルーブリックは、「採点指標」とか「採点基準」のように訳される、一種の尺度である。従来のペーパーテストがなじまない、「作業性」（実技的要素のある学習活動について、その質を位置づけるためのものである。たとえば、小学校の算数で「平均」を求める計算問題は、ペーパーテストで対応できるが、「平均とは何だろう」という問いのもとで、さまざまな学習活動を組み立てる場合には、生徒たちは、データ集めとグラフ化という作業を経て自分なりに何かを得るだろう。そのとき、「データの種類について考えただろうか」という柱を立てて、5から1くらいスケールのそれぞれの特徴を短く記述した文章をつけることがある。これを、一般的にルーブリックと言う。自己評価欄を付けることもある。私は、学習テーマごとにいくつかの柱と5行ほどの自己申告的記述を行う形を薦めている。ルーブリックづくりはこれから、先生方による単元開発活動の一部として不可欠の仕事となってくるだろう。

モジュール

広島大学大学院助教授 林 孝

モジュールとは、授業の基本単位を意味し、一般に15分から25分くらいの学習活動が一つの最小となる授業単位のことである。このような最小の授業単位を組み合わせた授業時間割は、1単位時間の扱いを柔軟に捉え、教育効果を高める時間割の弾力的運用の一つである。このモジュールに基づく時間割の本質は、生徒一人ひとりに応じた学習活動を保障し、教師が指導にあたることにある。すなわち、生徒一人ひとりの学習活動を重視し、生徒が自由にしかも生徒自身が責任のもてるよう、学校の授業が構成されるとする考え方である。

例えば、時間の長さの確保よりも回数数の確保を図る方が効果的な基礎基本の徹底を図る学習では、15分や25分などの1モジュールで毎日短時間集中型で実施する。また、生徒の学習ペースを保証してじっくり取り組むことが不可欠な学習では、標準よりも多くの時間を確保するよう、多くのモジュール数をあてるのである。

校内研修のための “新情報&新用語”48

04年度の教育界…どんな方向に動くかー私の予測……………7
教育特区から「教育の自由」の復興へ…(廣瀬 修一)・個々のパワーアップができる研修
熱心な学校運営を(岡澤 潤次)・知の創造体系としての教育改革の推進(岡東 壽隆)

この動き…どこまで広がるかー管理職としての目的付け所

地方分権化の動き…どこまで広がるか……………小島 弘道 8
学校選択制…どこまで広がるか……………多田 元樹 10
2学期制…どこまで広がるか……………村井万寿夫 12
目標の数値化…どこまで広がるか……………藤村 正司 14
学校ごとの成績公開…どこまで広がるか……………葉養 正明 16

“この動き”に賛成？反対？その理由ーあなたの意見を求められたら

教育基本法の改訂…賛成？反対？その理由……………18
教育基本法 抜をかぶったお宝でいいのか(森隆志)／教育基本法改正に対して条件つき反対(吉田武男)
中高一貫校の推進…賛成？反対？その理由……………20
「学びのインセンティブ効果」に期待(勝方信二)／学びの連続性を保障するために(天野正輝)
習熟度別指導の導入…賛成？反対？その理由……………22
習熟度別学級(高学年以上)に賛成(杉山浩之)／個に応じた学習支援法として期待(諏訪英広)
教職員評価の導入…賛成？反対？その理由……………24
教職員評価はなぜ必要か(清原正義)／教職員評価に賛成する(目賀田八郎)
特殊学級の存続…賛成？反対？その理由……………26
ニーズにあった支援の最優先を(梅永雄二)／枠組みよりも認識の改革を(林 隆)

“公開研究会”にみる教育研究の最前線情報ーその方向と課題をどう考えるー

最前線からの情報発信を確かなものにするには……………天笠 茂 28
地域に広げる公開研究会……………高階 玲治 30
成果の評価に基づく方策の共有化……………加藤 明 32

校内研修・新しい課題にどう取り組むか

発展学習と補充指導の導入…どう取り組むか……………井上 好嗣 34

絶対評価の導入…どう取り組むか

栄養教諭の新しいあり方…どう取り組むか……………田中 忠彦 38
教科総合の試み…どう取り組むか……………小西 文子 38
特別支援教育…どう取り組むか……………山形 幸次 40

わが校の校内研修…改革への新しい試み

「枠」な姿勢で生徒理解の充実を図る……………岡部 孝雄 46
子どもが変わる学校経営「学校マネジメントシステムと学校評価」……………勝山 明子 44
まずは「的」遠いようで近い道……………片桐 清司 48
教師の持味を生かす研究推進委の役割……………森 正樹 50
学力向上プロジェクトア事業の充実に向けて……………富岡 栄 52

この用語…何分説明できますか？…ニュー教育用語のポイント解説

アカウンタビリティ(工藤 文三) 学校マニフェスト(田中 博之) ロードマップ(千々布 敏弥) エンカウ
ンター(八巻 寛治) カミングアウト(鈴木 康之) セルフエスティム(桂 正孝) インクルージョン(清
水 直治) ポートフォリオ(安藤 輝次) エンパワメント(中野 陸夫) ジェンダー(馬居 政幸) ルー
リック(小田 勝己) モジュール(林 孝) 脳科学と教育改革(遠藤 英俊) ライフスキル(皆川 興栄) イ
ンテリジェント化(堀井 隆等) キャリア教育(藤田 晃之) 校長にCEO権限(若井 彌一) 特色ある大学
づくり(村田 俊明)

学校マニフェストをどう構想するか

「学校マニフェスト」は子ども、保護者等への「約束」……………小松 郁夫 60

特別支援教育の実践指針

特別支援教育コーディネーターの役割……………64
2学期制のメリットと導入のノウハウ……………大風 秀康 66
夏休み直前まで普段の授業を継続……………68
小学校英語導入のウォーミングアップ……………大森 修 68
小学生が英語を話す……………66

ADHDの子の親として医療と教育を考える

学習不振からの脱出は不可能なのでしょうか……………中西仁・横山浩之 70
教育情報の読み方・活かし方……………高階 玲治 72
文教ニュース▼学校の管理運営で中教審査▼地方分権下の教委の役割諮問……………安達 拓二 74

連載講座

平成の教育改革 全体像の大研究

色紙4
親の目・教師の目・記者の目ー教育界の問題点に迫る[3]
表紙3・4
学校でする動物との触れ合いー獣医師の提言[3]

表紙2・グラビア1
教育環境の工夫で学校の元氣をつくる[3] 富山県富山市立堀川小学校教頭 清水健太郎
グラビア2・扉
わが校のHP自慢[3] 東京学芸大学附属世田谷小学校教頭 田中康善

山上浩二郎
中川美穂子